

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195200092		
法人名	株式会社 ワークサポート		
事業所名	グループホーム ほのぼの(さくらユニット)		
所在地	網走郡津別町字達美209番地2		
自己評価作成日	令和2年11月10日	評価結果市町村受理日	令和3年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人口4,500人ほどの小さな町にある唯一の認知症対応型共同生活介護グループホームほのぼの。地域の一員として顔が見える施設作りを目指し積極的に町の行事に参加したり自治会への参加も行っている。依頼があれば町の主催する催事に出店したり研修会での講演を行いグループホームや認知症の啓発に取り組んでいる。コロナ禍の中、外出行事は自粛せざるを得ない状態ではあるがその分ホーム近辺の散歩やドライブ、ソーシャルディスタンスを保ちながらのホーム行事・会食・レクリエーション活動を行い楽しみある生活を送っていただけるよう工夫している。平成24年から地元の津別病院が在宅支援療養を開始し医療面でも安心が得られるようになっただけでなくグループホームが終の棲家として最期まで自分らしく暮らすことができる選択肢の一つとなっている。実際に看取り介護も行っている。施設は縦型の2ユニットとなっており利用者・職員とも自由に行き来ができその時々での落ち着ける安心した場所の提供がある。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=0195200092-00&Se
-------------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年12月9日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念とユニット独自の理念がありホールに提示し、毎月のユニットミーティングでの全員で唱和を行い職員間で共有しながら利用者に応じた個別ケアが実践できるように取り組んでいる		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、地域のイベントの参加、交流を計画して参加、受け入れを行っているが現在、コロナウイルスの影響もあり制限されている為、地域の情報収集を行いながら可能な範囲で交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ほのぼの独自の広報誌を年間を通し発行している。写真を通して生活の様子を紹介したり認知症や介護にまつわる記事を載せ理解を促している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での取り組みや生活状況を報告。また、テーマ別に参加したメンバーより意見や要望をもらいながら日々のサービスの向上に繋げている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に行われている介護事業所連絡会議での情報交換や町主催の研修、当運営推進会議内での話し合いをもとに助言を頂きながら協力関係を維持している		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を通し身体拘束の及ぼす悪影響を理解し身体拘束を行わないケアに日々取り組んでいる。また、入居者様に対する言葉の使い方や接し方など十分な対応がとれる様、ユニットのミーティングで話し合いを行う事もある		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修や事業内の会議で高齢者虐待研修の伝達講習を行い知識を深め、職員は互いに意識しあいながら防止につとめています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の伝達研修や外部での研修などで学ぶ機会がある。また現在、後見制度を利用している入居者もあり、その必要性を理解しながら支援を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明をおこなっている。特に今後起こり得るリスクや医療連携、看取りに関するものについて説明を行い同意を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は日常生活の中で確認している。ご家族には毎月、利用者様の様子を手紙に記し意見や要望を求めている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々の生活の中で意見や提案を聞く機会があり、現場の意見は運営に反映している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況の把握に努め各自やりがいや向上心を感じることができる環境整備に努めており、現場の意見は運営に反映している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス影響下で研修は、激減しているが研修案内や復命書を回覧し事業所外の研修には多くの職員が参加できるよう努力している。研修内容は報告書で全員で共有し質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の介護サービス連絡会議や研修内での多職種、同株式会社内の他の同業者と情報交換を行っており連携を図りながらサービスの向上に努めている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入居に対する考えや感情を把握しサービス開始時には、スムーズに以前の暮らしから移行できるようにしているが、状況により入居前の見学や体験入居も可能となっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困りごとや不安などを受容、共感した上で、こちらからも専門的な意見も述べながら、互いに相談を繰り返し、ゆっくり信頼関係を気付けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に不安や混乱など精神的に不安定な状態にないかをよく観察し職員間で共有し話し合いを行いながら必要なサービスを見極め必要なケアを提供できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と同じ一つの屋根の下で暮らす家族のように垣根を作らずなんでも話し合えるような関係性を作れるように努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要によっては電話での連絡によって利用者の心身状況を説明したり、家族からも情報を聞きながらともに支えていくチームとして関係性を構築している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の面会を大切にしており、一緒に写真を撮ったり、また楽しく次の面会に繋げられる様、努めている。また、馴染みの理容室で散髪するなど地域との関係性も途切れない様、支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握しながら気の合う同士で、レクリエーションなどを行い楽しんだり、隣に人がいて何をするわけではない時でも安堵しながら過ごせ環境作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も個人情報の保護を徹底し関係を必要とする利用者または家族とは関係を維持するよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で感じる本人の思い(主訴)を信頼関係を構築しながら聞きだせる様、心がけている。その為に家族にも協力を求めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビューアセスメントで本人・家族または関係者から生活歴や馴染みの物の聞き取りを行うと共に入居後も利用者からも話を伺い、その情報を職員間で共有し安心して生活できる場の確保に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日24時間、記録される生活記録や申し送り簿に個別には利用者の言動、表情、体調等の記録が成されており職員間で共有し、誰もが把握できるように把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット内のケア会議で利用者の課題や解決法について話し合いを行ったり、本人と、家族の意向や意見を取り入れながら、その時々利用者の課題に即した計画書を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録には計画書が添付されており、日常生活の中で出た、本人の言葉や表情は、具体的に記録に残し、職員間で共有し介護計画書の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の外出希望に応えた外出支援など、その都度新しいニーズに対応できる体制でいられる様、心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年、地域のイベントの参加、交流を計画して参加、受け入れを行っているが現在、コロナウイルスの影響もあり制限されている為、地域の情報収集を行いながら可能な範囲で交流している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望する医療機関への受診の支援があり要望に応じ在宅診療も個別に利用している。医師からご本人へのアドバイスもあり顔が見える医療によりご本人もご家族も安心し生活が送れるよう努めている		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定を行い健康の維持に努めている。何か状態に変化が見られた際には在宅診療の看護師や訪問看護師に報告し医療や看護が適切に受けられるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院までの状況や認知症状を細かく記入した介護添書の作成がある。入院後も医療機関への病状の問い合わせや退院後のケアに関わるアドバイスを受ける等の連携がある		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に関する指針があり、本人や家族の意向を大切に、利用者が安心して終末期を過ごして頂けるよう態勢が整っている。職員は知識向上に努め事例報告会などの研修にも参加し学習しながら取り組んでいる。看取りの実践報告を運営推進会議で発表したり町の研修会で実践報告するなど町民に向けて発信している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受講している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防や地域の方の協力を得ての災害時の避難訓練を行っている。先の停電では大きな混乱は無かったものの、発電機を新たに設備投資し災害に備えている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格、価値観を普段の生活を通し把握し、尊重できる様、努めている。また、集団生活の為、100%プライバシーの保護は難しいが、利用者の部屋は全室個室となっており、入室の際には声を掛けながらノックをしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションをとっていく中で、信頼関係を徐々に構築していき利用者が希望や要望を言いやすく、自己決定が行いやすい環境作りに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴時間は決まっている部分はあるが、利用者のペースや意思は尊重しており、個別で、その日その時間によって変更している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの理容院・美容院にきてもらったり、行ったりしている。好きな洋服を選んでもらい購入する支援も行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を取り入れた食事メニューを立案し、提供する際の食事形態も個々の身体機能に合わせて提供している。また食事の盛り付けや、後片付けなど職員と一緒にやっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外の間食の頻度や、その品物の種類の把握、毎食事の食事量、水分量を記録し確認、把握が行えており、献立作りに反映させている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前や外出後のうがい手洗いをやっている。舌ブラシや口腔用スポンジを用いるなど個別の対応もある。協力機関である歯科医の訪問治療を受ける事もある		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記録し、その間隔を把握する事で、声を掛けトイレに行って頂く事で失敗なく排泄が出来る事が出来る。その事により、おむつ使用の軽減が成されている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便を促すために乳製品や食物繊維の多い食材を使用した食事メニューを取り入れたり、体を動かす体操などを行い蠕動運動の促進を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかな時間は決まっているが、その日の利用者本人の気分や体調により変更は可能となっている。入浴を保清するだけの目的とせず、リラックスできる場として入浴支援にあたっている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理の無い日常生活、軽い運動を行う事で安眠に繋げる事が出来るよう支援を行う。共に生活パターンを個別に把握し、それぞれの居室の湿度、温度、好みの照明の明るさ等、配慮を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい処方箋は生活記録に綴じられ、変更した薬等は申し送り簿においても理解を求める注意喚起を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で食器を拭いたり、洗濯物を干したり、利用者自身が無理なく役割と自覚しながら家事を行える様、支援している。また習慣とされている飲酒を嗜む利用者もいる		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年、春には桜を見に。夏には町内のイベントに参加。秋にはドライブと買い物等、外出する機会を設けているが、今年度はコロナ禍のためホーム周辺や町内のホームセンターへの買い物などを行っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した時には、家族から預かっているお金を自分で管理していただき、自分で財布からお金を出し支払いして頂ける様、支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙の支援を行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は窓が広く庭を眺める事が出来き開放的な造りになっており、自宅と同じように室内で花などの植物なども育てている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には長椅子や、少し距離を置椅子が置いてあり、利用者それぞれの、落ち着ける場所が定着されている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅と同じように居心地よく暮らせる様にする為、また環境の変化に伴う認知症状の悪化を防ぐ為、居室には本人の使い慣れた仏壇や椅子、タンスなどの家具などを出来る限り持参して頂いている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身の部屋がわかる様、名前を書いた紙を部屋の入口に張り出したり、トイレの場所がわかる様、トイレの場所を提示した紙を壁に張り出している。またトイレ内の手すりには、掴まる部分が分りやすい様、赤いテープを巻いたりしている		